

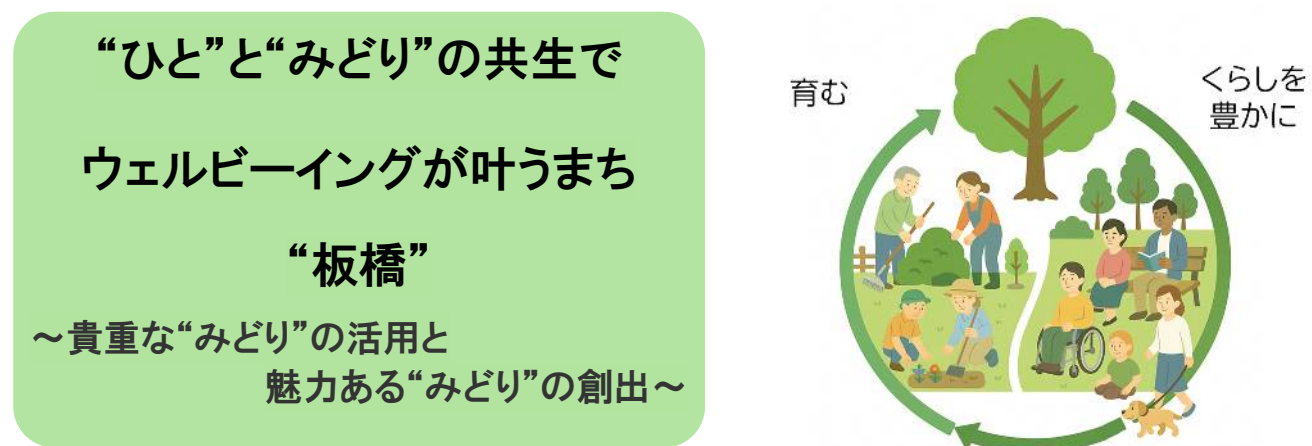
## いたばしグリーンプラン 2035 の骨子案について

### 1 計画改定の背景

- 「いたばしグリーンプラン 2035」は都市緑地法第 4 条に規定される「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」である。
- 平成 30（2018）年 3 月策定時からの社会経済情勢の変化（自然災害の激甚化、脱炭素社会への移行、ポストコロナ時代、人口減少社会の到来予測（2040 年代以降）など）へ対応しつつ、公園の管理方針である「板橋区パークマネジメントガイドライン」を統合させ、「持続可能な未来を“ひと”と“みどり”でつなぐ」を実現する計画となるよう見直しを行う。
- 次期「板橋区基本構想」、「板橋区基本計画」と整合を図り、区が考えるこれからのみどりの将来像を明確化し、その実現等に大きな役割を果たすものである。
- 改定を進めるにあたり、いたばしグリーンプラン 2035 改定骨子案を作成したので報告する。

### 2 “みどり”でめざす板橋の将来像

- 板橋区には、崖線、湧水、荒川河川敷、農地など、貴重なみどりの資産がある。
- みどりは、私たちの暮らしをより豊かなものとする、“かけがえのない存在”である。
- 人とみどりの関わりの中で、“みどりの魅力”を“最大限活用”していくことが重要となる。



### 3 みどりの定義

- 本計画では“みどり”を植物としての緑のほか、公園・緑地などのオープンスペース、そこで生まれる交流の空間、農のみどり、河川の水辺や湧水、鳥や昆虫などの自然要素を含む、広い意味での“みどり”とする。









樹林や樹木などの植物

公園などの  
オープンスペース河川の水辺や鳥などの  
自然要素

農のみどり

### 4 計画期間中の状況の変化

#### 地域課題解決に向け、グリーン“インフラ”として、みどりの活用が期待される

みどりに関わる社会状況の変化			
<b>ウェルビーイングの希求</b> 「健康日本 21（第三次）」が策定され、健康に関心の薄い者でも、本人が無理なく自然に健康行動を取れる環境づくりに向け、より実効性をもつ取組が求められています。 	<b>アクティビティへの期待増大</b> 「まちなかウォークブル推進事業」が創設され、「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりや、魅力的なまちづくりによる、にぎわい創出に期待が高まっています。 	<b>ネイチャーポジティブの提唱</b> 「生物多様性国家戦略2023-2030」が策定され、自然を回復軌道に乗せるための取組をさらに発展させていくことが求められています。 	
<b>ゼロカーボンに向けた取組強化</b> 「地球温暖化対策計画」が改定され、2050 年のカーボンニュートラルの実現に向けて、より積極的な取組が求められています。 	<b>ゲリラ豪雨の頻発化</b> 異常気象が問題視されており、本区でもゲリラ豪雨等による浸水被害が発生しており、今後も気候変動の影響は続く見込みです。 	<b>ヒートアイランドの激化</b> 平均気温が上昇傾向にあるとともに、都市の高密度化によりヒートアイランド現象が顕著になっています。 	
板橋区の状況			
<b>地域特性や人口減少への対応</b> 【地域特性】 ・高島平団地周辺（高齢化率 40%以上） ・赤塚・常盤台地区（子育て世代多） 【人口の推移】 ・2030 年に 60 万人を突破 ・2040 年にピークを迎え、その後減少	<b>10 年後に向けた板橋区の施策方針</b> ・2035 年に向け、板橋区基本構想、板橋区基本計画を改定 ・各個別計画でも、2035 年に向けたみどりに関する様々な施策を展開 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             個別計画も改定途中のため、素案時点で詳細をお示しします。 </div>		

### 5 現計画で見えた課題

#### テーマⅠ「みどりを次世代につなぐ」＜みらい＞

- 【緑被率が低下傾向】土地の売却による土地利用の変化や樹木の腐朽などから、民有地のみどりを中心に緑被率が低下傾向
- 【農のみどりが減少傾向】相続に起因した宅地化により、生産緑地地区や区民農園の面積、箇所数が減少傾向

#### テーマⅡ「みどりで街並みをつなぐ」＜まち＞

- 【民有緑化の体制】個別相談ごとに緑化を図っており、まち全体を見据えた緑化推進体制となっていない
- 【多様な民有緑化の推進】緑化スペースの課題などから需要が少なく、民有緑化の助成制度実績が伸び悩んでいる

#### テーマⅢ「みどりと人をつなぐ」＜ひと＞

- 【協働を促す組織が未導入】地域と民間などの活力を更に活かせる体制検討の必要がある
- 【公園を使いこなす仕組みが道半ば】まち全体の価値を高めるためにも、公園を活かしていく必要がある



6 計画改定のポイントと計画のテーマ

計画改定のポイント

- 快適な未来に向けて、みどりの持つポテンシャルの最大活用 <みらい>  
みどりのもつ多様な機能を更に引き出し、安全な未来の暮らしにつなげます
- 歩きたくなるまちに向けたみどりの活用 <まち>  
みどりの魅力を通して、にぎわいのある歩きたくなるまちをめざします
- みどりを通して豊かさを感じられる「仕組み」の構築 <ひと>  
みどりの持つ可能性を最大限発揮させ、豊かさの実感につなげます

みどりを  
“増やす”から“活かす”へ

計画のテーマ

持続可能な未来を“ひと”と“みどり”でつなぐ

みらいへつなげる	まちをつなげる	ひとをつなげる
快適な未来に 誘導するみどり	魅力的なまちづくりで ブランドを形成するみどり	暮らしの中に 幸せを運び込むみどり
脱炭素や暑熱対策等、 みどりを活かして将来も 過ごしやすいまちの実現に つなげていきます。	まちづくり等を契機として、 みどりを活かした魅力的な まちを実現していきます。	みどりと接する機会を通して、 より多くの区民が豊かな 暮らしを実感できるように していきます。



レガシーに  
つなげるみどり



インセンティブ  
による新たな  
みどり



新たな担い手  
によるみどりの  
創出



都市の  
骨格を形成する  
みどり



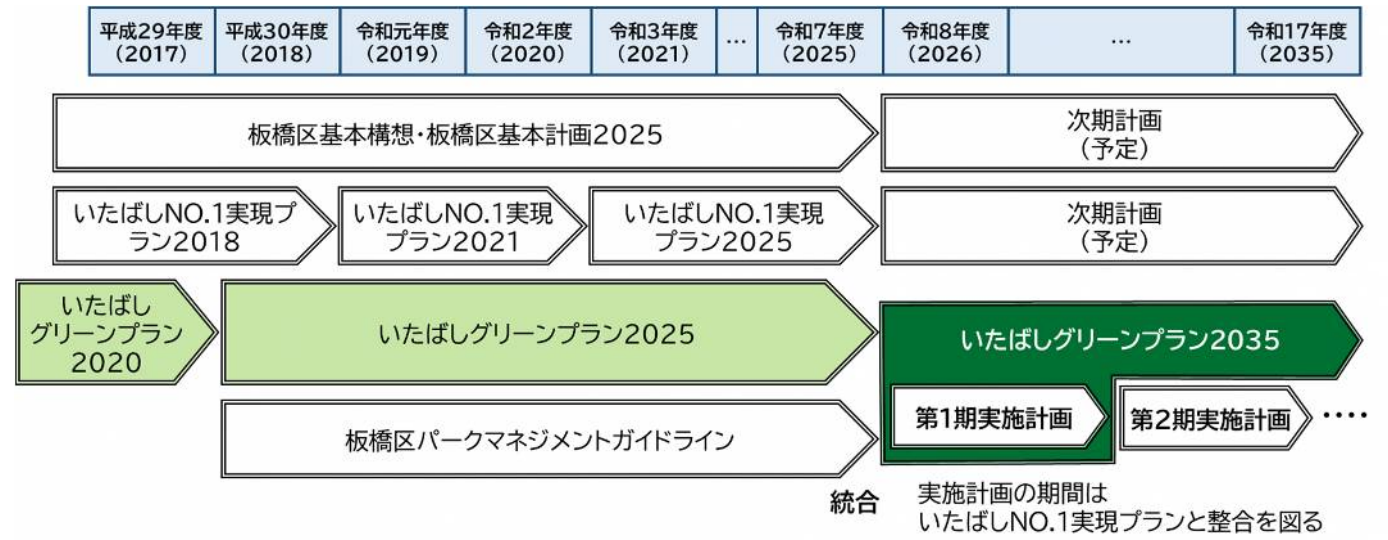
まちづくり  
による魅力ある  
みどりの創出



地域コミュニ  
ティを活性化  
させるみどり

7 計画期間

○次期「板橋区基本構想」や「板橋区基本計画」の計画期間と整合を図り、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度までの10年間とする。



8 改定スケジュール

時期	項目
令和6年4月	(改定方針)庁議
5月	(改定方針)都市建設委員会(区議会)
11月	区民アンケート実施
11月～12月	計画改定委員会・同部会
12月	(骨子案)庁議
令和7年1月	計画改定委員会・同部会
2月	(骨子案)都市建設委員会(区議会)
3月～7月	計画改定委員会・同部会(2回程度)
8月	(素案・パブリックコメント)庁議 計画改定委員会・同部会
9月	(素案・パブリックコメント)都市建設委員会(区議会)
10月	パブリックコメント実施
12月	(原案)庁議
令和8年1月	計画改定委員会・同部会
2月	(原案)都市建設委員会(区議会)
4月～	新計画に基づいて事業の推進